

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木支部会報 2009.03.31

NO.10

- 理事紹介 第20回総会・研究大会ワークショップ『学校教育相談にいかせる選択理論心理学』を受講して
佐藤 幹雄先生
(宇都宮海星女子学院中学校高等学校)
- 第17回栃木支部研究発表会報告 コメンテーター 毎澤 典子先生
○10月4日の事例研究発表会に参加して 福島 秀子先生
(太田市 小学校図書事務兼悩み事相談員)
- 第18回栃木支部研究発表会報告 コメンテーター 伊澤 裕先生
○精神医学特別講座 「小児科医から見た臨床」 渋谷 典子先生 (渋谷小児科医院院長)
○公開セミナー「個と集団を育てる学校カウンセリング」開催
シンポジストとして参加して 築瀬 のり子先生
(塩谷教育事務所いじめ・不登校対策チーム副主幹)
- 発達障害特別講座 「発達障害児への対応」 小林 順子先生
(国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター小児精神衛生相談室)
- カウンセリング特別講座・合同研修会
「キレル子への理解と対応」 今村 洋子先生 (播磨社会復帰促進センター責任者)
- 栃木支部からのお知らせ

○ 理事紹介

日本学校教育相談学会 第20回総会・研究大会

『学校教育相談にいかせる選択理論心理学』(大阪青山大学教授 米田 薫)

宇都宮海星女子学院中学校高等学校 佐藤 幹雄先生

この度、日本学校教育相談学会栃木支部の理事の末席に新たに加えて頂くことになりました海星女子学院の佐藤です。普段からの勉強不足に加え、学んだこともすぐ忘れてしまう未熟者ですので、どれほどお役に立てるか分かりませんが、精一杯努力していく所存ですので、よろしくお願い致します。

昨年の夏の学会の全国大会で、選択理論心理学を学ぶ機会がありました。アメリカの精神科医 ウィリアム・グラッサー博士が創始し、その特色は、「人生の内的コントロールを確立し、より良い未来を選択するための援助」ということでした。その基礎的となる考え方は、「人間は刺激に単純に反応して行動するのではなく、内発的な動機づけによって行動を選択する」というものです。

我々は日常的に、子どもにとってよかれと思って何かをさせようとしたり、逆にやめさせようとしたりします。このように相手をコントロールしようとするのを外的コントロール心理学と呼び、選択理論心理学は、外的コントロールではなく内的コントロールを目指すものです。

私はこのワークショップに参加して、これの理論は学校現場で有効な方法となるのではないかと実感しました。特に、我々教師はどうしてもよかれと信じて生徒を外的コントロールしようとしがちです。しかもそれが人間関係を破壊することになることに気がつかないことが多いと感じるからです。私自身、自身の生徒指導が生徒に響いていないということが教育相談への入り口でした。早くに選択理論心理学(以前は現実療法)に出会っていればいち早く教育相談の世界に飛び込んでいたのではないかと思います。ありがとうございました。

○ 『第10月4日の事例研究発表会に参加して』

福島 秀子さん (太田市 小学校の図書業務兼悩み事相談員)

「これが、絵画療法といえるのかどうかわかりませんが、どうしてこれをやろうと思ったの」と毎澤先生に指摘されました。これは去る10月4日の研究発表会でのことです。

私は、太田市の小学校の図書室で図書業務兼悩み事相談員として勤務しています。図書室では、容赦ない子供たちの来室で悪戦苦闘の毎日です。来室する子供たちに共通して見られることは、一丸裸の自分全てを本当に見てよ、受け入れてよ。—ということです。だからしっかり受け止め、時には愛情に満ちた言葉をかけます。その後、子供たちは、輝くような笑顔を見せ、子供の最大の武器である、あのあどけない素直な表情を見せてくれます。どの子も本当によい子です。私はそんな子供たちが大好きです。

ところが、先日の発表会では、私の至らない点をストレートに指摘され、本当につらかったです。そして、甘くない仕事であることを痛感させられました。今後も、ここでの勉強を生かし、大好きな子供たちの笑顔を守るため日々精進していきたいのです。ご指導ありがとうございました。今回参加できてとてもよかったです。できれば今後とも参加させていただきたいと思います。



○ 精神医学特別講座

演題 「小児科医から見た臨床」 講師 渋谷 典子先生

(渋谷小児科医院院長)



平成20年12月13日(土)教育会館5階小ホールにおいて、日本学校教育相談学会栃木支部、栃木県教育研究所主催各種講座合同のカウンセリング教養講座が行われました。例年であればこの講座は2月行われていたものですが、今年度は12月に開講した。また、研修開始時間も午前10時からと変更されました。しかし、会場の小ホールは大入り満席の状態でした。

講義の内容は、タイトルの通り『小児科医』としての立場からのもので、発達障害(注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害、学習障害、発達性協調運動障害)、うつ状態、強迫神経症、チック、ジル・ドゥラ・トゥレット症候群、PTSD、解離性障害、摂食障害、過呼吸症候群などの症状について詳しく説明してくれました。また、これらの症状を抱える患者がどのような経路で受診に来るのか、受診される患者の傾向など小児科医として沢山の症例を見てきた先生だから言える貴重な講義でした。

先生が各発達障害の関係性を説明されている中で出てきた『自閉症スペクトラム障害』という概念を相談の受け手が持つと良いのではないかと、相談に携わる人達には、医師立場からの見方も知り、心のどこかに留めて置かなければならないのではないかと色々考えさせられる講義でした。

(藤浪 直紀 記)

○ 公開セミナー『個と集団を育てる学校カウンセリング』を開催

今年度、日本カウンセリング学会栃木県支部会と日本学校教育相談学会栃木支部共催により10月26日に公開セミナーを開催致しました。

これまで個別指導に対する対応の様々な研修がされてきましたが、「個」をいかに「集団」に注目した学校カウンセリングという研修を企画しました。

学校カウンセリングにおいて、個のニーズに応じた相談活動やチーム支援に加えて、集団、とりわけ学校生活の基本単位である学級集団を対象とした活動が求められます。学級集団は、日々変化し、個とは双方向に影響を及ぼし合う関係にあるといわれています。そこで、学校の先生方から評判の高いQ-Uに関する内容を含めながら学級を一つのケースと捉えたアセスメントやよりよい学級集団に育てていくための支援のあり方など講演とシンポジウムを開催いたしました。

公開セミナー

講演『個と集団を育てる学校カウンセリング』

粕谷 貴志 奈良教育大学 准教授

司 会 シンポジスト

大龍 伸一 宇都宮市教育センター相談グループ 係長

大類 賢治 鹿沼市立中央小学校 教諭

青木 友宏 塩谷町立塩谷中学校 教諭

太田垣雅子 宇都宮市陽東中学校 特別支援教諭

築瀬のり子 塩谷教育事務所 いじめ・不登校対策チーム 副主幹

指定討論者

粕谷 貴志

小牧 明広

宇都宮市立姿川第一小学校 校長

○ シンポジストとして参加して

築瀬 のり子先生 (塩谷教育事務所いじめ・不登校対策チーム 副主幹)

協議の冒頭に、司会者から「個を育てることが先か、集団を育てることが先か」との質問を頂き、個を育てることと集団を育てることは円環的な関係であり、成長（あるいは衰退）はスパイラルに進むことが確認できました。これまで学校カウンセリングは個へ注目し支援することを促進してきましたが、個と集団をいかに育てていくかが今日的課題なのだと共通認識をもてたと思います。そして、子どもと教師、子ども同士のつながりの量と質をアセスメントし、つながりの弱い部分へ、負のつながりの部分へ手を入れ、たくさんの双方向で尊敬と思いやりに満ちたつながり

を拡げていく。このアセスメントと具体的な支援の方法の提案が、学校カウンセリングに期待されているのだと思います。役割や学級の壁を越えて協働の風土を職員室に醸成する、教師と教師をつなぐこともまた学校カウンセリングに親しむ者の務めでもあるのだらうと思います。専門性の研鑽はもとより魅力ある個人として成長したいものだと改めて感じたシンポジウムでした。

○ 発達障害特別講座（月例研修会）演題「発達障害児への対応」

講師 小林 順子先生

(国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター小児精神衛生相談室)

平成21年2月7日(土)教育会館1階中会議室において日本学校教育相談学会栃木支部月例研修会が行われました。

「発達障害の理解と対応」というテーマで国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター小児精神衛生相談室小林順子先生が話されました。中会議室が一杯になる40名弱の会員が参加され、現在発達障害における関心の高さが感じられました。

様々な場面で発達障害という言葉を目にしますが、発達障害の症状を見せている子でも実は脳の病気ではなくて、環境因子が要因の場合があるということも考えられる事例を、ビデオや事例を取り上げてわかりやすく説明してくださいました。「なるほど」とうなずいている参加者も多かったようです。

また、障害を持っている子どもたちへの的確な介入の仕方なども話してください、受講生にとって大変実のある研修会であったと思われまます。

(斉藤 誠一郎記)

○ 発達障害特別講座「発達障害児への対応」に参加して

小林順子先生のお話の中の「いろいろ慰めてくれるやつに言いたい。そんなら俺の脳で生きてみろ!」との実例に驚きました。“地球に生まれた異星人”くらいの認識しか持っていなかった私には、示された自閉症児の事例も、映像で紹介された風景構成法としての絵画も、とても有益な学習になりました。

脳は9歳くらいで大人になってしまうので、その前に治療や介入が必要なこと、また小学校中学年期に具体的に体験することが重要なこと、良い環境と学習によって症状が軽減することがある等も知りました。

早期発見と生涯のケアが必要との小林先生の講義を聴いて、私も発達障害への理解と協力に向けて努力したいと思いました。

(高松千恵子記)

○ カウンセリング特別講座 演題「キレる子への理解と対応」

講師 今村 洋子先生

(播磨社会復帰促進センター社会復帰促進部責任者)

平成21年2月7日(土)教育会館5階大ホールにおいてカウンセリング特別講座が行われました。

先生は、少年鑑別所の少年たちに関わった経歴を持ち、私たち教員が「キレる子への対応」として持つイメージより現実味があり、かつ実践的なお話でした。

少年鑑別所で出会った少年たちの様子から『キレる子』の行動面、内面や彼らにとっての非行の意味から彼らの『怒り・攻撃的行動』に焦点あてて、これらの少年たちの特徴として『表面の活発さ、明るさと対照的な、内面の自己受容感や自尊感情の乏しさ・自己の安定した存在基盤の脆弱さであり、それが自己中心的、攻撃的行動に結びついている。その背景には対人関係の希薄さなど関係性の貧しさや歪みがある』と話されました。

また、先生は、これらの少年の理解だけにと留まらず、攻撃的行動の対処やコントロール方法についても詳しく説明して頂きました。『怒り』自体には「良い・悪い」はなく、その表現やコントロールにより「良いもの・悪いもの」になると説明し、怒りや攻撃的行動をコントロールするためには、“怒りのサイクル”を知り対処すること話されました。

怒りのサイクルは、キレる子の思考を変えることでコントロールでき、思考を変えるには『信念』の修正、感情の転換、行動の修正など、これらの子への対応のヒントを下さいました。

